1学年だより

西東京市立柳沢中学校
令和７年 11 月 28 日
No. ２２

言葉について考える

「死ね、うざい、消えろ…」残念ながら、みなさんの日常生活の中で耳にする機会が少なくない言葉です。みなさんの中にはそれらの言葉の重さをそれほど意識せずに発している人もいるようで、とても残念で不快であるとともに、恐ろしささえ感じます。

ある本でこんなお話を読んだことがあります。

花瓶にさしてあるバラの枝に二つのつぼみがあります。その一方のつぼみには「汚い花だ、だめな花だ、つまらない花だ…」とののしり続けます。もう一方のつぼみには「美しい花だ、素敵な花だ、かわいい花だ…」とほめ続けます。すると三日目になって花を咲かせたときに、ほめられ続けたほうのつぼみは見事に美しい花を咲かせたのに対して、もう一方ののののしられ続けた花は半開きの貧しい花しか咲かせなかったというのです。

花に人間の言葉が理解できるのかどうかは別にして、花にも自分がどう関心をもたれているかで、このように花の咲き方に変化があるという実験結果が出ているそうです。

ましてや、人間はどうでしょう。自分自身を振り返ってみても、他の人から自分がどう関心をもたれているかで、ずいぶんと心や体に及ぼす影響が変わってくるのではないでしょうか。

全世界から惜しまれつつ亡くなったノーベル平和賞受賞者のマザー・テレサは**『愛の反対は無関心である』**と語りました。人間にとって愛されることの反対は、憎まれることではない。**一番つらいことは、自分の存在を認められないことである**というのです。考え方はさまざまでしょうが、確かに自分が透明人間か、空気のように扱われて無視されること以上につらいことはないような気がします。

また、彼女は**『人間にとって最も悲しむべきことは、病気でも貧しさでもなく、自分はこの世に不要な人間なのだと思い込むことだ』**とも語っています。自分が周りの人から必要とされることはとてもうれしいものです。**また、自分が誰かや何かのために必要であるという実感は、人が生きていくための原動力のひとつでもある**といえるでしょう。

このことを私たちの身近な例で考えれば、家族、友達、クラスメイト、部活動の仲間、学年・学校の仲間、地域の人々がお互いに関心をもち合っていくこと、それこそが『愛』なんだとマザー・テレサは言っているのではないでしょうか。朝会ったら「おはよう」と声をかける。そこからさらに言葉を交わす。そこにお互いの関心が生まれ、温かい関係が育ちます。余裕がなかったり、忙しかったりする時でも、相手に関心を示し、温かい言葉をかけ合うことで、新たな人間関係が生まれ、今までの人間関係もよりいっそう深まっていきます。

ゆく言葉が美しければ、
返ってくる言葉も美しい。

これはお隣、韓国にあることわざです。自分の言葉や人との関係を見直すいい言葉だと思いませんか？では、『美しい言葉』とは何でしょう。正しい言葉づかいが必ずしも『美しい言葉』とは限りません。**その言葉に込められた『心』が大切なのは言うまでもありません。**だからこのことわざの『言葉』を『心』に置き換えてみてもいいでしょう。また、この言葉を裏返せば**『ゆく言葉が汚ければ、返ってくる言葉も汚い』**ということにもなります。

一度口から出てしまった言葉は決して取り消すことができません。だからこそ、感情的に汚い言葉を発するのではなく、言葉を発する前に落ち着いて考えてから言葉を発してほしいのです。

□来週の予定

月/　日（曜）	行事予定	備考
12/　1（月）	全校朝礼	
12/　2（火）		
12/　3（水）	三者面談始	午前授業・給食あり
12/　4（木）	三者面談	午前授業・給食あり
12/　5（金）	三者面談	午前授業・給食あり